

銀漢亭日録



伊藤伊那男

12月1日(土)

▼「總句会」十四人。「与志喜」里芋と大根の焼くもわたの味噌焼。隣の禪次さんに「痛風に悪いのでは？」と嘔き、半分せしめる。兼題の鯛の生干し、あと握り。酒は田酒。あと「イタリヤ」にて大和、禪次さんと銀漢賞の第二回目選考打合せ。あと、一人渋谷の「福ちゃん」、マクロ、生ガキ。伊集院静先生、贈呈と伝えているのにまた購読代金を送金して下さる。有難し！

2日(日)

▼中野サンブラザにて「春耕同人句会」あと、「炙り谷」にて忘年会。三十数名。あと洋酔、大和、窪田明、島貫、禪次さんともう一軒。新宿で買物をして帰宅。

3日(月)

▼酒残る。発行所「かささぎ」勉強会。阿波野青歌と。終わって十三人店。大住光注君久々。坂崎重盛さんなど。オリックスと、そのあとの金融会社を共に通過した山田雄嗣さん、関西から訪ねてくれる。小滝さんと三人で思ひ出話。協行雲氏より愛媛のみかん二箱届く。早速「かささぎ」勉強会の方々に。

4日(火)

▼雨。「春耕」古市枯声さんより「会津みしらず柿」沢山届く。藤田ひろむ氏より愛媛の「紅マドンナ」というみかん届く。今年は庭の山茶花、花多し。店、秩父夜祭帰りの小川洋、敦子、うさぎ、健彦さん来て句会始まる。追って橋本有史氏。「月の匣」水内慶太氏、今日誕生日と。有史さんからシャンパン出て、展枝、いづみさんがコンビニのシュークリームをキーキ仕立てにして蠟燭立てて祝う。久々寝過ごして椀上水。

5日(水)

▼発行所「かささぎ句会」あと店へ八人。ひまわり館にて「宙句会」あと六人。

6日(木)

▼奈良の吉村征子さんより手作りのひろうす沢山。唐招提寺写経用の筆も。その昔、京都嵯峨森嘉のひろうすに驚嘆したが、それよりも上。三代川次郎さん挨拶に来てくれる。

7日(金)

▼「銀漢」二月号の校正。湯島句会報の校正。発行所「大倉句会」終って十人店。西村麒麟さん企画で二十代の俳人六人程。句会も。名古屋から中村絃子さん出張で来店。

8日(土)

▼十時より運営委員会。先月の会で投句者、新入会員増強策を決め、各句会担当者に散文を送ったが、早速「高遠句会」三人、「宙句会」一人、「名古屋句会」三人、「野村句会」一人、「北軽井沢句会」二人の入会報告あり。唐沢君、新句会発足と。委員会あと大和、禪次さんと三人残り、第二回銀漢賞の最終選考会。十三時、半蔵門の麹町区民館にて本年最後の「本部句会」。五十六人参集。清記用紙四十枚廻る。あと「庄屋」にて忘年会二十八名。中村絃子さん(名古屋)参加。

9日(日)

▼平成俳壇仕上げる。あちこち礼状。作句。御徒町にて買い物して十七時過、日暮里ホテルラングウッドにて「写真集団スーリア」のグループ展。水内慶太、加茂住職の写真拝見。洋酔、麻里伊さんなど。会場でワイン出て打上げパーティーにも誘っていた。

10日(月)

▼午前中、選句。年末の「蕪村忌句会」へ出句。渋谷東急ハンズに寄り魚の天日干し網を入手。発行所最終校正。あと編集会議。店、環さん京都の染色家と。武田編集長久々元気に飲む。透水さんと洋酔さん。

11日(火)

▼からすみを作っている。生の鰻の卵を一週間塩漬。あと一週間日本酒漬。今日から天日十六腹。作句など。まだまだ年末まで、句会沢山あり。宇多喜代子著『戦後生まれの俳人たち』(毎日新聞社)発刊。百九名。私も。「火の会」二十人。発行所は事業部、新年大会投句の打ち込みや式次第の打合せ。

12日(水)

▼「蕪の葉句会」終って店にて忘年会十人。池田のりを氏、私の伊那北高校三年先輩の安藤光隆氏と。安藤氏は慶大の先輩でもあった。三和銀行のあとと債権回収会社社長。宮澤、伊勢神宮の河合真如宮司と。河合氏、「銀漢」購読料払ってください。「月の匣」水内慶太氏来店。

13日(木)

▼宗一郎、小太郎さん。発行所、「男の着付教室」終って五人。全体客少なし。

14日(金)

▼菅原庄山子さんより山形の銘酒「一本」。高野清風さんより丹波の黒豆到来。店、小野寺さん主催の「戻り鰻の会」ただし鰻が去ったあとにて蟹、牡蠣、その他で。真砂年、肖子さんなど十二名。発行所は「金星句会」。終って六名。高校の先輩いさん新橋の俳句会のお姐さんと。話してみればこの先輩、私の初恋の同級生のいとこであった。オリックス時代の部下の女性社員だった塩谷、来島さん来てくれる。久々の賑わい。

15日(土)

▼「OH!」つもり句会にて昼前に店。十三時半、出句締切で五句。あと三句出しの席題句会を二回。最後に一句出し。二十二人。一段落した頃、高校先輩で「ほかい人」伊那の井月」の映画監督の北村皆雄氏がふらりと来店。一緒に飲む。終って洋酔、展枝、近恵、いづみ、小石さんと「大金星」へ結局、零時近くまで騒ぐ。ちよとと……やつてしまった。

16日(日)

▼九時、整体。選挙。散髪。買物その他。快晴。からすみを干し続ける。昨日は整形のためのプレス。朝妻さんより茨木和生氏がいいい鯛が入ったとて伊那男さんへと届けてくれたと。年末の奈良「すす逃げ吟行会」の忘年会で皆で楽しむとする。夕方、成城、桃子家で家族忘年会。蟹鍋、モツ鍋、シャンパン。鰯酒など。

17日(月)

▼「湯島句会」出句百四名。出席三十七名。丸五年で六十回目を迎えた。それに合せて宇和島の片山辰巳氏よりみかん一箱届く。「雲の峰」総会で「一緒だった鳥取の山内英子さんより、こべ蟹、干鰯、ヤリイカなど到来。

18日(火)

▼「萩句会」あと店にて忘年会十人。店「雛句会」五人。他、客少なく十二時に店閉める。

19日(水)

▼高校同期「三水会」十人。「はてな句会」九人(岸本、坊城、敦子、文子……)小島正さん厚木の豚の味噌漬届けてくれる。

20日(木)

▼「銀漢句会」あと二十五人来店。忘年会となる。丁度、お

21日(金)

▼安藤さん掃除。狭庭もきれいにしてくれる。雑用多く原稿書き進まず。発行所は「野村句会」終って七人店。今年は今日で店はおしまい！これでは儲かるわけがない……。最終日は堀切、凌雲……と若手が来てくれる。

22日(土)

▼十時半、横浜桜木町駅集合。三十数人。冷たい雨。ドックヤード、日本丸を経て赤レンガ倉庫へ散策。三階のレストランに入る。ローストビーフでビール、ワインを楽しむ。ようやく雨が上り、日本郵船歴史博物館。歩いて水川丸を見学。十六時、「揚州茶楼」にて出句三句の句会。忘年会となる。終って洋酔さん等と馬さんの店に寄り、飲み直す。

23日(日)

▼朝から原稿追込み。いくらかは旅先へ持ち込みとなる。昼過ぎの新幹線で京都へ。宿は祇園「森庄」、亡妻の親戚経営で谷崎潤一郎の定宿「細雪」を執筆した東山の見える部屋を用意してくれる。二間続き。これで素泊り八千四百円！ですよ。皆さん利用してください。妻の実家の墓参、妻分骨の大谷相廟。寺町の「京極スタン」、妻の従姉妹、妻の友人と大い！京都へ戻ったな。十七時半、小春の従姉妹、妻の友人と祇園「らく山」(シシランの星)。①ぐじと無蒸②銀杏と干この③くもこ焼④とんぶり、舞茸、ホウレン草のこま和⑤よこわ、ふくぶつ切、あぐの煮⑥うずらの団子に焼葱添、スッポンスープをはる⑦あぐの白子ポテト⑧諸子焼⑨うぐの唐揚げ、まなかつを西京焼⑩なまこ酢、鱈⑪海老半煮(五時間煮含めると)⑫赤だしとこはん、塩鮭焼、香のもの⑬アイスクリーム。以上の料理一万円のコース！酒は麒麟山のぬる燗……さて何回お替りをしたことか。あと下河原「森庄」の隣の親戚の店にてウイスキー。ピザなども食べてしまふ。零時就寝。